

## 3-12. NPO 法人大杉谷自然学校（三重県多気郡大台町）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

#### ●地域の概要

大杉谷地域は、一部を吉野熊野国立公園に、全体を奥伊勢宮川峡県立自然公園に含まれる自然豊かな地域である。また、一級河川宮川の源流・上流部に位置している。平成 16 年の豪雨災害以降、大杉谷登山道は閉鎖されていたが、10 年ぶりに平成 26 年 4 月に開通予定である。

登山口がある、大杉谷地区は、大台町内で最も過疎高齢化が進んでいる地域である。ダム建設当時の昭和 34 年は 2,896 人と最大の人口であったが、ダム建設による集団移転や林業の衰退、高度成長による集団就職などで、急速に過疎化が進んだ。

大杉谷地区への活性化対策は、昭和 40 年代から始まっており、宮川ダム周辺を観光拠点と位置付け、大杉谷峡谷への登山者の受け入れや大杉谷林間キャンプ村の開業(昭和 53 年)、ダム湖の遊覧船の就航などにより、交流人口が大幅に増加した時期もあったが、現在は度重なる豪雨災害の影響もあり交流人口は大幅に減少している。現在は、260 人まで人口が減少し、高齢化率は 71%と超高齢化社会となっている。

#### ●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

平成 16 年の豪雨災害以来 10 年ぶりに大杉谷登山道が全線開通となり、今後、登山客が増加することが想定されるが、町内のガイド団体が集って意見交換や登山道利用について話し合う機会がなかった。

開通前に各実施団体で共通ルールについて話し合い、足並みを揃えながら安全で適切なエコツアーの在り方を模索する機会としたい。



## (2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成 26 年 2 月 25 日（火）～平成 26 年 2 月 27 日（木）
場 所	大杉谷地域総合センター2階講義室
アドバイザー	公益財団法人キープ協会 環境教育事業部シニアアドバイザー 川嶋 直 氏
参加者	NPO 法人大杉谷自然学校 5名、(公社)大杉谷登山センター1名、大杉谷案内人の会 1名、大台町観光協会フィールドマイスター1名、大台町 2名（大杉谷出張所 1名・産業課 1名）、宮川流域ルネッサンス案内人 1名、大台町ふるさと案内人 1名、桃の木山荘関係者 1名 計 13名
スケジュール・方法	<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打合せ</li> </ul> <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川嶋氏によるガイド講座（実技・役割・品質維持等の事例紹介）</li> <li>・参加団体からガイドの概要発表</li> <li>各関係者の意見交換会（環境保全・ゴミやトイレ等への共通認識・価格・安全管理等）</li> <li>登山道概要説明（コース概要・事故・利便性等）</li> </ul> <p>【3日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会</li> </ul>

## (3) アドバイスの内容

### ●1日目

#### ○川嶋氏講義（自己紹介・環境教育プログラムの紹介・エコツーリズム概論）

講師の川嶋氏より、キープ協会での事例紹介の他、環境教育プログラムの紹介をスライドを見せていただき解説していただく。

その後、エコツーリズム概論を紙芝居方式でプレゼンしていただく。これまでは、エコツーリズムという考え方があまりなく、樹木、歴史解説がガイドであると考えていた参加者が多かったため、エコツーリズムに関する考え方を学ぶことができた。

#### ○登山道説明

大杉谷登山センターより登山道の概要についてご説明いただく。平成 25 年度の利用者数や事故数、事故事例など詳細な報告となった。また、平成 26 年度の予想入山者数や交通アクセス整備も説明いただく。

#### ○参加者による意見交換会

参加者が意見交換をする機会として、自己紹介の他、ガイドの経験、内容、価格、環境配慮など現在実施しているガイドについて 1 人ずつ発表を行った。その後、課題を洗い出し、これまで議論がされてこなかったテーマを整理した。

### ●2日目

#### ○アドバイザーの方によるアドバイス

前日の内容を受け、大杉谷でのエコツーリズムに必要な要素や他地域でのエコツーリズムの事例などをご紹介いただいた。そして、経験が浅い参加者が多かったため、実際にお金を払って他のガイドが実施しているプログラムに出てみると参考になる等具体的事例を教えていただいた。



グループに分かれての意見交換



事業紹介の様子



エコツアーリズムについての講義



全体で意見交換会を実施

#### (4) アドバイザー派遣実施の効果

##### ●参加者や関係者に与えた効果

参加者は多くがガイド経験者もしくは、ガイド業を促進する人であったが、ガイドに対する意識は様々であった。例えば、参加費（1人あたり300円から1万円）、山中でのトイレの仕方（指導なし、埋める、持ち帰る）など差が大きいものがあることがわかった。

災害の影響で登山者が多くなかったため、特別のルールがなかったが、今後、ツアー客が活用するようになれば、ルールも必要になるということで意見が一致した。今回はその手始めにメーリングリストを作成し、連絡体制を強化することとなった。

ガイドの方法としては、これまで樹木や山野草、歴史の紹介しかしてこなかった人が多かったが、川嶋氏による、環境教育プログラムの事例紹介は新しい取り組みということで大変参考になったという声が多かった。

##### ●今後の期待される効果

今後は、情報交換、連絡体制及びルール作りを担うグループか協議会を設立し、エコツアーリズムの理念が生きたツアーを提供したいということで意見が一致した。

また、安全管理や体験プログラムについては勉強会や研修会が必要であると要望が出たため、今後は定期的を開催したいと考えている。

## ●今後の取り組み

今年4月の全線開通のために、参加者全員が協力してエコツアーの受入を実施していくことになった。4月に3回程度エコツアープログラムを提供する予定である。

その他、安全管理研修は早急の実施が必要であり、夏までには実施する予定である。

## (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項と感想

- ・これまで参加者には自然情報を提供するだけだったので、体験を提供することは新しい視点で大変参考になった。
- ・登山道では実施は難しい場合が多いが、登山道に入る前後に提供するのは付加価値がつく
- ・登山道だけではなく、大台町全体を使ってエコツアーの提供はできないか。
- ・アクセスや宿泊が整備されていないため、情報提供をするなど整備が必要。
- ・参加者間の意見交換会をする機会がなかったので、大変よかった。
- ・事故や行方不明者がでているのを知らないケースもあったので、今回メーリングリストなど情報共有方法ができたので大変よかった。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

---

公益財団法人キープ協会 環境教育事業部シニアアドバイザー 川嶋 直 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

この地域には13年前から「大杉谷自然学校」が設立されており、今回の派遣事業でも派遣依頼の中核となっている。大杉谷自然学校には地元出身の大西かおりさんが校長として活躍している。大西さんは全国の自然学校ネットワークでも広く知られる存在なので、今後他地域の自然学校などからの支援を受けることも可能だ。

地域全体の事業としてのエコツアーはまだこれからの地域ではあるが、その核になる組織（大杉谷自然学校）はすでにしっかりとした活動をしている。また、大杉谷登山道は平成16年以来10年ぶりにこの春に開通することになっている。登山者の安全管理のためのルールや、トイレやガイドの基準がまだ整備されていないので、この機会にこのあたりの作業を進めてゆくことが当面の課題であろう。

### ●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

大台ヶ原—大杉谷登山道はかつて年間16,000人を迎えた魅力ある観光資源である。また地域の食材を利用した地元料理も、今回私が宿泊させていただいた「奥伊勢フォレストピア」で提供されているフランス料理など、なかなかレベルの高いものと思えた。そして何より、訓練された10名近いスタッフを抱える「大杉谷自然学校」はこの地域の得難い魅力（資源）となっている。

また、この地域は他地域からの居住者の積極的な受け入れも行っている。まだその実績は乏しいが、受け入れへの積極的な姿勢を持っているということは、今後エコツーリズムに関係する新規居住者等が関わることが出来る素地がある事にもなる。

### ●アドバイス（講義等）の概要

ガイド組織が複数存在し、それぞれのガイドに関するルールも一本化されていない現状では、ひとつひとつ確認しながらのルール作りが必要。特に、有料ガイドとボランティアでの無料ガイドの混在はお客さまにとっても分かりにくく、今後調整をする必要があると思えた。

お客さまにとって大杉谷が提供するアクティビティ（プログラム）がどのようなレベルのどのような価値を持つものであるのかを確認するためには、ぜひ他地域の同種のアクティビティ（プログラム）に参加されることを強く薦めた。自分たちのプログラムと他地域でのプログラムを対比して見ることで分かってくることもある。こうした「お客様体験」を数多くすることが、自分たちの地域の魅力の見直しにもつながるし、自分たちのプログラムサービスの質を見極めることにも繋がる。

### ●全体構想への取組状況・意向について

「エコツーリズム…協議会」の設立までは、まだ少し道のりが必要かと思うが、今回私の訪問を機に「大台町観光協会」を始めとして、「大台町」「登山センター」や「ガイド事業者」などが一同に介して、現状の確認と今後の可能性について話し合いの機会を持たせたことは、最初のスタートラインに立てたという大きな意味をもつものと思われる。

大杉谷自然学校は、上記取りまとめの作業について中心的な役割を果たそうとする意志を持っている。中心的な核が明確な意欲を持ち、その周辺も協力的な関係性があるこの地域には、確実にエコツーリズムの歩みが始められると感じられた。

## ●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

名古屋や大阪からの立地は決して良くないこの地域だが、その分「滞在型」の学校教育と連携した自然体験を中心としたプログラムの可能性を感じた。また、昨今の登山ブームもあり、大台ヶ原—大杉谷間の登山は一定の需要があると考えられる。

そして何よりも大杉谷自然学校のスタッフたちを中心に関係する方々が、魅力ある大台町を多くの方に知っていただく第一歩が今回踏み出せたのではないかと思う。今後の発展を期待する。